

大阪城

2023
2/13 (月)
14330 号

金港湾
西成分会

2247
6647-
4947

1月はいぬ。2月は逃げ。3月は去るといわれる。とりわけ2月は。休日(2/11, 2/23)があり、

2月28日(火)までなので、とりわけ過ぎるのが速い。

日本経済社会の中核や軸である金利を決める日本銀行のトップが新しく決まりそうである。

10年近く安倍政治とくつろいだ黒田日銀総裁が4/8にやめるので、新しく植田和男(植田和男)が教授になると報道されている。

すぐではなすが、日本社会の金融政策や金利は時局をかなから変換していきそうである。

安倍内閣の敗政権の予先に陥して、ジャブジャブの

金融緩和、日銀が大株主になり株を買った虚構の株高演出など、日本経済社会の構造をやがめ、

成長を妨げてきた。厳しくも速く正される必要があるだろう。4月以降の金融政策が注目される。

役所や学校、企業等は、3月が年度のしめ、4月から新しい出発というところで、この2月と3月は、日々、少しずつ動きになるようです。その上、4/9、4/23が統一地方選挙、市長知事選挙なので、自分のペースを乱されないように、ゆったり歩いていくことが、良いように思われます。春の来訪を楽しみます。

「ルポ・西成訪問看護師と取り残される“感染弱者”」
コロナの感染による死者数が全国最多の大阪。西成区の訪問
看護の現場では、今も自宅療養者への対応が相次ぐ。「5類」へ
の移行が決まる中、積み残されてきた課題を探る。11月に
続き、大阪のコロナ対策を検証する第2弾。今回カメラをす
えるのは、大阪・西成区にある訪問看護ステーション。看護師
たちは、この1年半、保健所の依頼で、自宅療養者への健康観
察を続けてきた。直面したのは、介護ヘルパーが訪問できなく
なり、食事がとれず衰弱したり、病状を悪化させる高齢者た
ちの姿だった。「5類」への移行を前に、積み残された課題は何
か。現場のルポから考えていく。

初回放送日：2023年2月10日（NHK関西熱視線）

先日NHKが西成の簡宿アパートでの孤独死・コロナ感染対策
での「見回り訪問看護」「訪問介護」の特集をやっていました。
生活保護になっている高齢者がバタバタと亡くなっていく現
実が描かれていましたが、これが5月にコロナ対策の2類相
当から5類相当に引き下げられることにより、この「健康観
察のための見守り」がとりやめになる方向なので、「弱者をみ
すてない社会的責務」を訴える番組になっていました。

20年ほど前に簡宿トヤがアパートに看板を切り替えること
により増加するホームレス状態の仲間が生活保護の在宅措
置が可能になって社会的矛盾の一次的解消に役立ってきたの
ですが、それが20年たって、皆が「高齢末期」に直面するよう
になって、ますます深刻の度合いが大きくなっています。

それにしても「西成」の「あいりん地区」の高齢者に向かい合っ
ている介護事業所の「介護」「看護」に従事する人たちの役割
は大きいのでともに労働条件の改善が必要だと思えます。